

---

# ラーメン

いえやす

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ラーメン

### 【著者名】

Z7625D

### 【作者名】 いえやす

### 【あらすじ】 おいしいラーメン屋さんがありました。近所の人はみな常連です。

「こりゃしゃませ」

「ああ、奥さん、こんなにひま。

昨日ばかりしたの臨時休業なんかして」

「あ、じめんなさい。ちよつと野暮用でね」

「急にだから心配しちゃつたよ。じゃあこつもの。タンメンセツ  
トで」

「うわ、新作できたんですね。試してみます。」

「ああ、じゃあこつつかな。こへりへ。」

「500円ですか」

「ほら、安いね。

ヒカルドウ、田那は？」

「それが全然。向こうの女のところでも行つたんでしょ

「やう、相変わらずだねえ」

「まあ、いい加減あたしも疲れましてね。  
もう気がしないことにしました」

「もう遊びの境地つてどこかに

「まだまだ元気でさね。

正直腸煮えくつ返つてますナビ、でももうあきらめました」

「恐いねえ。おととこの夜、また派手にやつたんだって？」

『殺してやるー。とか聞いえたよ』

「ああ、『めんなれ』。お恥ずかしいわ」

「奥さんもす』ことねえ。あの『うつ』旦那相手に一歩も歩かないんだから」

「そんなことないですよ。身体を鍛えてたのは昔の話。  
今じゃただのデブなんだから。100キロもあるんですよ。  
そんな体重で動けるわけないんだから」

「旦那もいい加減落ち着きやっこになあ。『んない奥さんい  
るんだしねえ。』

ラーメンの腕だつて大したもんなんだから」

「まあ、それだけがとりえでしたからね。  
でもある人いつも言つてましたよ。

『店が繁盛するのは、俺の腕じゃなくてお嬢さんのおかげだ。お  
嬢さんには感謝しり』って」

「それなのに最近はずつと奥さんに店まかせつまつなのかい？」

「そのおかげであたしひとつでも店を回してこけるよつになつた  
んだから。

苦労はしてみるもんですよ。

「これからだつて、一人でがんばらなきゃ いけないしね」

「またすぐ帰つてくれるわ」

「わあ、どうだか。今回はもう帰つて」なにと思いまよ

「え? うつむいて思つんだ?」

「わあ、それはねえ……。

はい、おまかせのわが」

「はい。 いただきます。

……あれ、奥さん、スープ変えた?」

「わかります?」

「いつもと違うのはわかるよ。  
うーん。この味は……。

なんだろう?

あれ? そりいえば、奥にある大きな寸胴は?  
大きすぎるからつていつも使ってなかつたやつじゃなかつた?  
ずっと火にかけっぱなしじゃない?」

「え? うーん?」

「奥さん、あんたまさか?」

「…………」

「…………」

「…………フフフ」

「…………ハハハ、『めん、『めん、『めん、『冗談だよ、『冗談」

「フフフ……。当たり前ですよ。うちの人をスープにだなんて。あんな『テフ、スープにしたら油だらけになっちゃいますよ。うちはトンコツやつてないんですよから」

「『めん、『めん。ずいぶんあつあつしてるねえ、このスープ」

「魚介と野菜で仕上げたんですけど、ビリビリです？」

「そうだよね、肉のしつこさがまったくないよね。いやあ、おいしいと思つよ。このスープ。だけじどうかな？」

「このラーメンだけだとあつさつさわがわと物足りないかな？」

「

「ああれうそつ。忘れてた。

そのラーメンには、これが付くんですよ」

「え、いいのかい。500円なんだろ？」

「ええ、お客様感謝セールをしようと思つてしまつてね」

「うーん。おいしい。

ボリュームもあるし。あつさつ味のラーメンに合つねえ」

「そうですか？」

じつは「こっちにあわせてスープをあつさりに作ったんですよ」

「いいねえ、甘辛くて、とろとろで、超大盛り。

おいしいよこの『チャーシュー丼』。

たっぷりの脂がご飯に染み込んで。

ラーメンがあつさりしてるからしつこくならないし」

「よかつた、しばらくこれ一本で行こうと思つてるんですけどね」

「へえ、いつまでやるの」

「ええと、一人前200グラムで、……100キロだったから……。  
……。

までよ、骨とか捨てる部分もあるし……」

「どうかした?」

「いいえ。こっちの話。

ええと、300人分、400人分くらいかな。それが切れるまで  
はやりますよ」

「へえ、大丈夫かい? そんなにサービスして」

「ええ、今回は採算度外視。

……それに原価も掛かってないんでね。ああ、こっちの話です。  
ほんと、お客様、様様ですかね。  
あの人もきっと喜んでくれますよ。  
最後にお客さんに恩返しできたるんだから」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7625d/>

---

ラーメン

2010年12月12日02時59分発行